

# じどうかん通信

第134号

令和8年2月発行

愛知県児童館連絡協議会

第14回元気スイッチ on!! あつまれ! あいちのじどうかんに参加して

尾張旭市 本地ヶ原児童館 杉山 慶太

今回、「元気スイッチ on!」の実行委員として企画段階から当日の運営まで関わる機会をいただきました。初めての実行委員に最初は不安もありましたが、「こどもの居場所」である児童館のあり方や研修による厚生員の資質向上などの具体的な話し合いを通して、全体のイメージがわかり始めると、実行委員の活動が楽しく感じるようになりました。

全体会、分科会、あそびば部会と3つある部会の中で、私はあそびば部会に参加しました。あそびば部会では“出展者が事前準備や当日の運営をどのようにしたら動きやすいか”を中心に話し合い、資料などを作りました。資料作りでは、“初めて見た人でも分かりやすい”を意識した意見交換を重ね、出展者・参加者の視点を持つことの必要性などを学ぶことができました。

大会当日、担当したあそびばには、大人・こども合わせて300人以上が参加し、予想を上回るにぎわいとなりました。会場は、朝から活気があり、参加者が各ブースに行くたびに「これ楽しそうだね」「これすごくいい!!」といった声があちこちで聞こえ、出展者の方々の笑顔やこども達の楽しそうな表情を見て、あそびばを担当して本当に良かったと思いました。また、私も一参加者として各ブースを回らせていただき、出展者の方々の関わり方や好奇心をくすぐる遊びの紹介の仕方などを体験し、“このようにしたらこども達は楽しく遊ぶことができるんだ”と身をもって学ぶことができました。

今回の経験を通して、企画・運営の難しさだけでなく、チームとしてつくりあげる楽しさや喜びを強く感じました。この気持ちを忘れず、今後も今回得た学びを生かし、より良い児童館運営に繋げていきたいと思います。



## 第2回三河ブロック研修会に参加して

設楽町子どもセンター 小野田 亜由美

令和7年11月12日（水）豊川市やねのにつぼうホールで開催された上記の研修会に参加しました。午前は「ゲーム・運動遊び」を愛知県児童総合センターの海老澤千佳氏より、午後は「情報交換 新しいイベントづくり」と題した研修を受講しました。

### 【ゲーム・運動遊び】

午前は実際にゲーム形式で、異年齢などですぐに使える遊びをいくつか教わりました。「新聞紙探検隊」という遊びでは、制限時間内に指定された文字や数字などをいくつ探せるかを競い合いました。グループの方と頭を突き合わせ、じっくりと目を凝らし、皆真剣そのもの。グループに渡されたものは新聞紙1枚とペンが1本でした。ペンが何本もあれば協力してできるのですが、このように遊びの中に少し制限をつけて、不自由さを感じるようなルールを加えると、遊び自体の面白みが増すということを教わりました。広いスペースが取れない場所での遊びとしても、取り入れやすいと感じました。

「あんたがたどこさゲーム」では、4人で飛ぶバージョンや、「♪〇〇さ！」のタイミングで足を開くなど、1つの遊びでもいろいろな遊び方があることも学びました。ルールに縛られることなく、「こういうのはどう？」などと遊びのルールを柔軟にとらえる雰囲気も大切だということを実感しました。研修で学んだ「肌で感じた楽しさ」を子どもたちに発信していけたらと思います。



### 【情報交換・新しいイベントづくり】

午後はそれぞれの児童館のイベントの様子を紹介したり、各施設の情報交換をしたりしました。こども会議を開いてそこで出た意見を反映させたイベントを企画している児童館もあったり、中高生の利用が少ないからどのようなイベントを企画しようか考えたり、相談する場にもなりました。日頃、こうした情報交換はなかなかできないため、とても有意義な時間となりました。最後に班ごとに新しいイベントを企画しました。イベントを立ち上げる際のヒントとして、「できないことに理由をつけるのではなく、どうしたらできるかを考える癖をつけるといいです」と教わりました。あまり無理はできませんが、現状の問題の把握をして、同時にどういうことを求められているかなどを理解して、できることから需要に対応する努力をしていきたいと思っています。

## 第2回児童厚生員研修会に参加して

北名古屋市 児童センターきらり 伊藤 愛

令和7年10月10日（金）一宮市尾西生涯学習センターで開催された「地域福祉活動」の研修に参加しました。講師の愛知東邦大学教育学部子ども発達学科教授伊藤龍仁氏からは、改正児童館ガイドラインを踏まえながら事例も交えて地域福祉の中で児童館に求められる役割について教えていただきました。

まず、現代のこども達が抱えている危機的状況の中で最も深刻な3つ、①虐待や自死の増加、②貧困・いじめ・孤立化、③少子化と笑顔の減少について具体的な件数も交えながら教えていただきました。その中で印象的だったことは、自死全体の件数は減少傾向であるものの、小・中・高生の若者世代の自死は2024年に529人と、1980年の統計開始以降最多であったということでした。学校・家庭・地域が分断されがちな中でこども達がSOSを出しにくい、また出しても届かないという現状があることを知り、児童館の在り方や児童館としてできることを一つひとつ実践していきたいと思いました。

次に、地域福祉活動の定義や理念、児童館が担う役割についてポイントごとに分かりやすく教えていただきました。意識したい実践視点として、①気づく力②聴く力③つなぐ力④広げる力⑤続ける力の5つを教えていただき、日々のこども達への接し方を振り返るきっかけとなりました。児童センターに赴任して半年余り経ちましたが、来館するこどもとの会話やこども同士の遊びを見守る中での些細な表情の変化やサインに気づいたり、こどもの本音を引き出していけるよう傾聴と共感を心がけたりするなど、自分自身でできることを行ってきたことで、今ではこども達との関係の構築が少しずつできてきたと思います。今後もこの視点を意識しながら児童館が遊びや居場所を通して人をつなぐ橋渡し役となっていけるようにしたいです。

グループワークの中では、自館で始められる地域福祉活動のアイディアについて話し合いました。地域や専門施設との連携、中高生の支援など各市町村で取り組んでいる活動について情報交換をしたり、取り組みの意図やねらいについても話し合うことができ、とても有意義で多くの考えを知るきっかけとなりました。

今回学んだことを活かし、誰でも安心して来られる児童館づくりや地域とつながる児童館活動について、小さなことからできることを行っていきたいと思います。





## ～行事の紹介～ もったいないから始まった創作活動

大治町児童センター

夏が始まる前、たくさんのA4サイズの透明なクリアシートをいただきました。

「これで何か作れないかな？」——そんなひらめきが、センターでの創作活動の始まりでした。始めは職員の中でも「どんなふうに使おうか」「こども達が興味を持ってくれるかな」と手探りのスタートでしたが、実際にこども達に材料を見せると、「作ってみたいな」と小さなアクションがみられました。



夏休みには、好きな絵を描いて吊るし、光に透かして楽しむ工作を行いました。こども達は思い思いの色を塗り夢中で作品を仕上げていました。風で揺れた作品を見上げたこども達は大きなリアクションはないものの、どこか嬉しそうな笑顔がみられました。



敬老の日には、感謝の気持ちを込めてクリアポーチを製作。贈る相手を思い浮かべながら丁寧に仕上げていく姿には、こどもなりのやさしさと思いがやりが感じられました。

冬には、ツリー型に折ったシートにセロファンを貼り、ライトを照らすとキラキラと輝くクリスマスツリーを作りました。出来上がった作品を並べて点灯した瞬間、こども達から「わあ、きれい！」と歓声が上がり、部屋いっぱいにあたかな光が広がりました。「もったいない」から始まった工作が、こどもの自由な発想と手のぬくもりによって、次々と素敵な作品へと生まれ変わっていきました。



児童センターは、こどもの「やってみたい」という気持ちを大切にする場所であり、輝くもうひとつの居場所でありたいと思っています。

児童センター内で支援センターも運営しており、季節に合った行事や子育て相談などさまざまな活動を行っています。あるお母さんが、初めて来館され不安そうにしていたお母さんに「こどもを遊ばせに来てるといより、私がおしゃべりに来てるんです。」と笑顔で話されていたことがありました。その言葉を聞き、児童センターが保護者にとっても安心できる居場所になっていることを改めて感じました。

こうした取り組みを通して、こどもの成長を支えるだけでなく、お母さん同士が自然に出会い、つながりを感じられるような環境づくりにも力をいれています。これからも、こども達の豊かな育ちを支えるとともに、お母さん達がほっとできる“居場所”を育んでいけるよう、温かいセンターづくりを続けていきたいと思っています。



## ～行事の紹介～ 試行錯誤の毎月の工作

扶桑町 児童センターひまわり

児童センターひまわりは、2023年4月にオープンし、3年目を迎えています。「扶桑町の子ども達の居場所を作ろう！」「子ども達に楽しいを届けよう！」を目標に扶桑町初の児童センターを運営しています。

オープンしてしばらくすると、子ども達から「どう過ごして良いのか分からない」という声を聞きました。町内初の児童センターに、子ども達の中には児童センターでの過ごし方に戸惑いもあるようでした。

そこで、スタッフで話し合いをして、「毎月の工作を準備してはどうだろうか？」という案が浮かびました。毎月1つですが、ゆっくり取り組んで、センターでの過ごし方の1つとして定着してくれたらいいなと思いました。

松ぼっくりけん玉、ハロウィンmonster、どんぐり工作、八の字風車、キラキラ風鈴、ストローヒンメリ、ビー玉迷路、ペーパービーズアクセサリ、お絵描きうちわなど、季節感や行事を意識した物などを取り入れ、作って遊べる物や飾って楽しむ物を、毎月1種類子ども達に提案しました。参加は自由。お便りの予告を見て、工作目的で来てくれる子どもも増えました。

工作を始めて分かった事がありました。蝶々結び、輪ゴムで留めるなど日常生活の中でよく使う行動ですが、出来ない子どもが意外と多く、やり方を教える事がありました。

工作そのものを楽しめるように企画していましたが、子ども達の日常生活のスキルも、工作を通して少しずつ上がるとうれしいなと思います。

これからも、子ども達のワクワクに応えつつ、子ども達のスキルアップを目指して、工作を続けていきたいと思っています。



## ～遊びの紹介～ 糸掛けアート

高浜市 翼児童センター

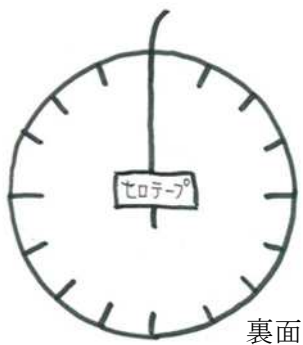
糸の掛け方でいろいろな模様が出来上がります。複雑に見えるけれど、糸の色の組み合わせや掛ける順番で、世界に一つだけの作品に仕上がる、集中と発見の遊びです。

身近な素材を使って、小学生が作りやすいバージョンを紹介します。段ボールの代わりにコースターや紙皿、毛糸をカラー糸に代えるなどカスタマイズすることができます。

☆材料 ダンボール(直径 10 cm)、毛糸、セロテープ

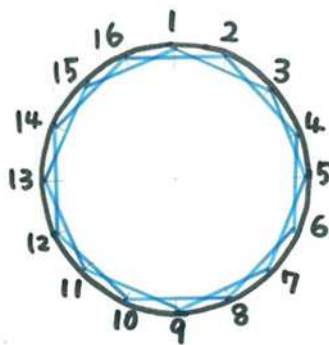
【糸の掛け方】＊切り込みを 16 入れたバージョンです。

- ① 円形のダンボールに、切り込みを入れ、好きな色の糸を選びます。

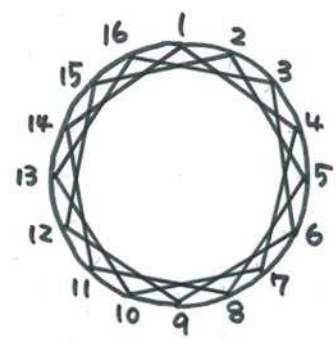


裏面

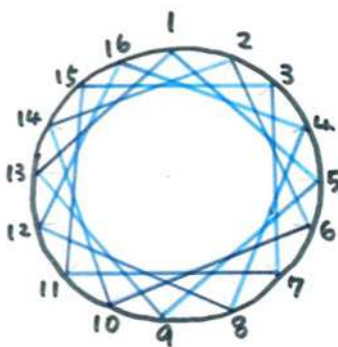
- ② 1→3、2→4…と 1 目ずつずらしながら 16 まで糸を掛けます。



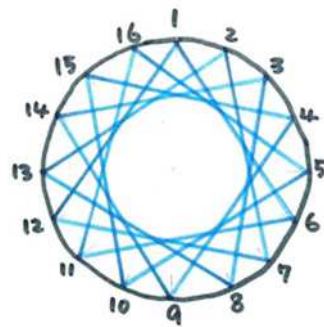
- ③ 1→4、2→5…と掛けると少し内側に模様ができます。



- ④ 1→5、2→6…です。もっと内側になりました。



- ⑤ 1→6、2→7…です。



いろいろな色の糸を使って、いろいろな掛け方をして作った、子どもの作品です。



糸の掛け方や切り込みの数で模様が変わります。いろいろ楽しんでください。

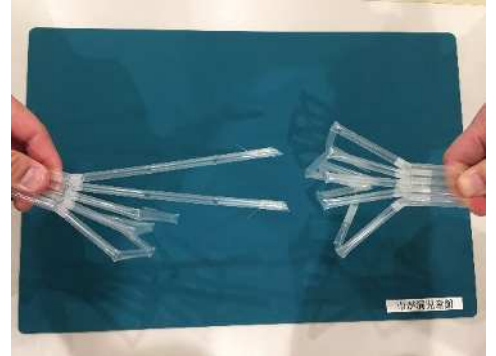
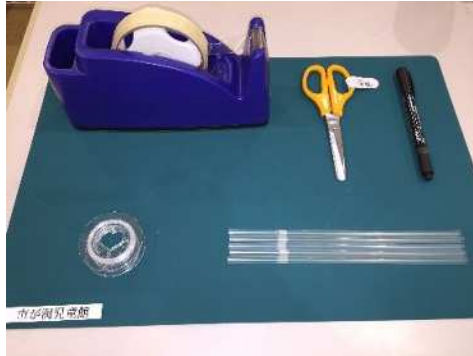
## ～遊びの紹介～ マジックハンド

長久手市 市が洞児童館

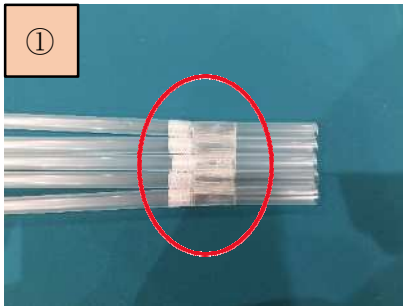
ハロウィン工作で子どもたちに好評だったマジックハンドの作り方を紹介します。

## &lt;材料&gt;

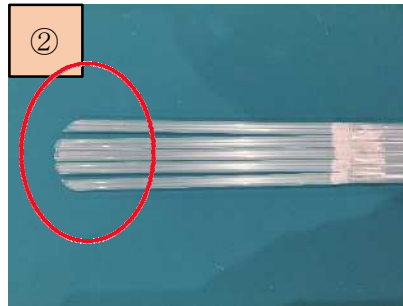
- ・蛇腹のストロー（5本）※見本は長さ 210 mm、直径 6 mm
- ・テグス（2号）
- ・はさみ
- ・セロハンテープ
- ・油性ペン



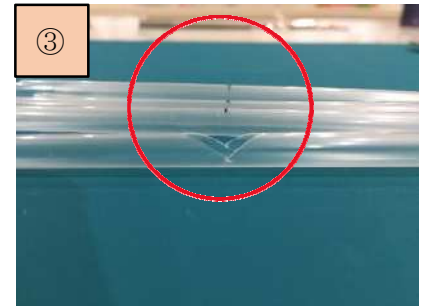
## &lt;作り方&gt;



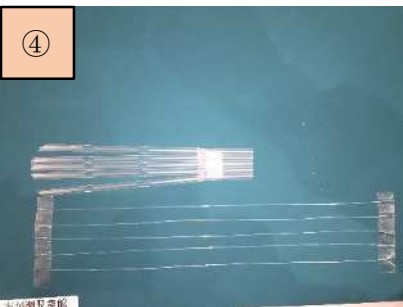
① ストローを揃え蛇腹の部分の下をセロハンテープで固定する。



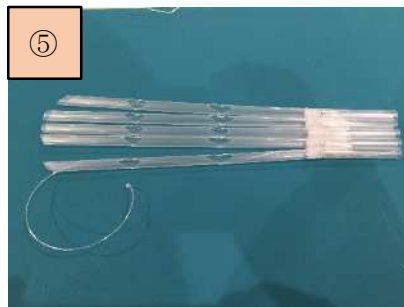
② ストローの先を半円状に切る。  
※切り口が鋭いので先端を処理する



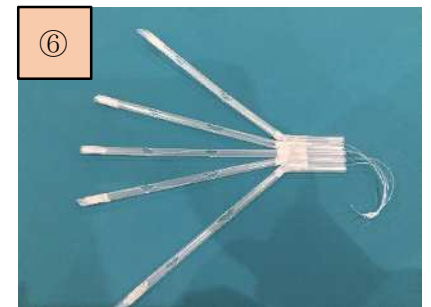
③ 指の関節にあたる部分（第一関節と第二関節）を斜めにカットする。



④ テグスをストローの長さの1.5倍程でカットし、上部を玉結びにする。（テープで貼った際に抜けないようにするため）



⑤ テグスを指先の方から中に通し、セロハンテープで固定する。



⑥ 5本とも通したらテグスを結ぶ。指先を開き完成。

じゃんけんをしたり、物をつかんだりしてあそぶと楽しいです！



## 令和7年度「じどうかん通信」の発刊を終えて

機関紙委員会一同

編集会議は編集委員の皆さんとの情報共有の時間でもあり本当に楽しかったです！2年間ありがとうございました！

大治町 中村

いろいろな児童館やスタッフの方の今を知ることができ、私自身の勉強になりました。1年間ありがとうございました。

春日井市 上田

じどうかん通信で、各児童館に紹介していただいた、あそびの多彩さと創意工夫に驚きました！

豊橋市 坂上



通信の原稿の校正をしている中で、他の市町村の情報を聞いたり悩みを共有する機会もあり、有意義な時間でした。

扶桑町 若尾

この1年間の機関紙はいかがでしたでしょうか。編集を通して、様々な取り組みや思いに触れることができ、嬉しく思います。来年も皆さまに良い情報が届けられるよう努めていきます！お楽しみにっ！！

設楽町 勘解由

「じどうかん通信」を通して、愛知県内の様々な市町村の情報を知ることができ学びも多かったです。これからも、「こどもがまんなか」な社会が広がりますように！

北名古屋市 山崎

1年間ありがとうございました！